

ららぽーと富士見

LaLaport FUJIMI

No. 19-014-2015作成

新築
物販／飲食／集会場

発注者	三井不動産株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術／FB
設計・監理	基本計画・環境デザイン/石本建築事務所、THE BUCHAN GROUP 実施設計・監理/㈱安藤・間 一級建築士事務所	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携	
施工	㈱安藤・間	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他	

「都会と自然の接点」として、多様で豊かな場を提供する商業施設

事業計画・設計コンセプト

建設地は、富士見川越道路(国道254号バイパス)に面し、富士見市の総合計画で定められたシティゾーンに位置する。「人・モノ・文化が交差する新拠点～CROSS PARK～」をテーマとし、従来の“人が集まる”施設から「空間」、「コミュニティ」、「体験」、「ショッピング」を通して“人が交流する”ことを目指した商業施設である。設計コンセプトは「都会と自然の接点」とし、地域の魅力を反映させたデザインを目指した。

近隣に配慮した配置計画

近隣住宅地に対しては、隣地境界線から建物まで約50mセットバックし、圧迫感を与えないように配慮し、商業棟の3階部分も一部セットバックすることで、住宅地には日影を落とさないよう計画した。こうして生まれた空地は住宅エリアとの緩衝帯となる「ららぽーと公園」や「ランニングコース」として、商業棟セットバック部は「屋上庭園」として、日常的に利用できる場とした。多くの来客車両による周辺交通・構内交通の渋滞緩和のため、リングロードを設置することで敷地内を周回できるシステムとしている。地域貢献、共生と多世代の来客に対応するため、交通広場・イベントスペース・多目的ホール・保育所を併設し、誰もが来訪しやすい商業施設を目指している。



上/南側外観 中/東側外観 下/全景



2階よりフードコートを見る



1階よりモール吹抜け部を見る

環境と調和した外観デザイン

富士見市役所等公共施設に面する南面ファサードは、白をベースに鮮やかな配色の水平ラインを取り入れることで、都会のイメージを反映させた。また、国道に面する長いファサードをもつ東面は、いくつかのブロックに分割し、変化のある外観になるよう配慮した。中央のブロックには、国道を挟んで向かい合う畑等、自然のイメージを反映するよう、グリーン系のランダムな配色とし、垂直性を強調したデザインとした。

環境への取組み

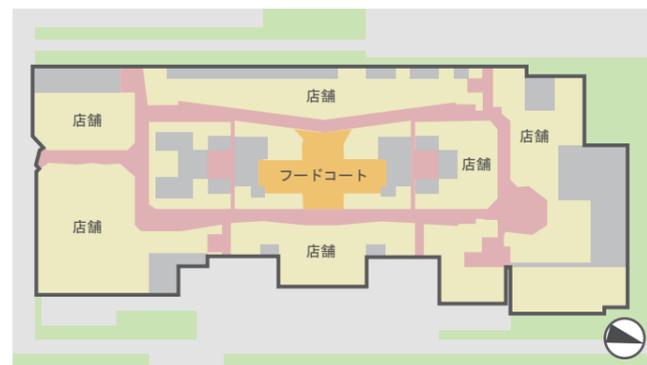
芝生駐車場、屋上緑化、壁面緑化、フェンス緑化等を含め緑化率25%を確保するとともに、約8,700㎡の緑地公園を整備し、多くの樹木や遊具、ランニングコースを設置し、多世代の交流の場を屋外にも設けた。また、太陽光発電、ハイブリッド外灯、電気自動車充電器、コージェネ、雨水再利用等も設置した。内部においては、照明はLEDを基本とし、後方通路に関しては人感センサー付LEDとし、省エネに努めた。2、3階の床はタイルカーペットとすることで、容易な貼替えを可能とした。

防災への取組み

浸水対策として、敷地内に大容量(約63,000㎡)の雨水貯留槽を設置した。BCP対応として、特高変電設備を2階に設置した。帰宅困難者対応として屋内の空調、トイレの電源を確保した。屋外にはかまどベンチ、マンホールトイレ、井戸も設置している。地震対応として、工事中2014年4月の建築基準法改正を受け、吹抜けの天井を「特定天井」仕様に変更し、応答スペクトル法による構造計算にて天井地等を決定した。また、エレベーター、エスカレーターも新耐震基準を満足している。

ユニバーサルデザインへの取り組み

館内の案内サインは可能な限り4カ国語表記(日、英、中、韓)とした。トイレや駐車場などはさまざまな利用者を想定しバリアフリー化しているが、特に子育て支援の一環として「ママにやさしい」をコンセプトにフードコートの客席や授乳室等をデザインした。こうしたさまざまな取り組みにより、東武東上線エリア最大級となるリージョナル型ショッピングセンターとして、さらに進化した「ららぽーと」が誕生した。



1階平面図



ららぽーと公園より北側立体駐車場を見る

設計担当者

基本計画・環境デザイン:石本建築事務所/担当:有坂貴之、志村直樹 THE BUCHAN GROUP/担当:HARVEY MALE
実施設計・監理:株式会社 安藤・間 一級建築士事務所/建築:宮本一郎、福井浩夫、植田英輔、齊藤聡、中井千尋、坂本一雄
/構造:鈴木和弘、春山智史、東條有希子/設備:古川信吾、小田勉、郷栄治、久保島正樹

主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (大容量雨水貯留槽、2階床レベルの特高変電所、かまどベンチ、マンホールトイレ等帰宅困難者対応)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (広場、公園、イベントスペース、多目的ホール、保育所、ドッグラン、フットサル場)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (ハイサイドライト、トップライトによる自然採光、太陽光発電、ハイブリッド外灯)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明、センサー制御、コージェネレーションシステム)
- LR2. 1. 水資源保護 (節水型機器、雨水再利用)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (屋上緑化、壁面緑化、交通負荷抑制、周辺の日照に配慮した配置計画)

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	PAL削減 17 %	Aランク
竣工年	ERR (CASBEE準拠) 37 %	BEE=2.0
敷地面積	LCCO ₂ 削減 65 %	2009年度版自治体提出
延床面積		
構造		
階数		

